

---

# 混成鍊金

るうな

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

混成鍊金

### 【著者名】

ねつな

N2985F

### 【あらすじ】

オリジナルストーリー　面白おかしく作れちゃってますwwwどうぞ足を運んでください

## プロローグ

「神の領域い? んだよ、それ?」

旅の途中で聞いた、『神』といつ葉。その村の人たちは、口を揃えて、いつ葉。

「いつの村を治めている村長さんは、やうやあ凄いんだ……」「何が凄いんだよ……」

やつ訊くと。

「例えばこの小麦をパンに出来るんだー!」

とか、

「このワインを水にするんだよー!」

とか、

「この鉄を鋼にするんだぜー!」

とか……。

どつやらいの村の人達は、これを  
『神の領域に踏み込む、とにかく凄い業』  
…つていう風に思い込んでるやつ。

「……どー考へても……混成鍊金……だよなア……」

混成鍊金。ただの鍊金とは、多少違う。

混成鍊金とは、物の質量が完全に無視できる、凄い技術。ま、その分物の強度は下がるけど。スッカスカになるんだ。質量がねえってのは、そーゆー事。

ただ、無から有は作れない。そこら辺は同じだ。それから…構造的に全く違つ場合は、作れない。

「あ、～…腹、減つたなあ…。草、ねえかなア…。あ」

草は、パンになる。ほら、パンの原料の小麦つて、植物だろ？つまり、植物＝パン…みたいな感じでムリヤリ鍊金できる。こんなむちやくちやな事が出来んのは、混成鍊金だけだ。だから、かなりムチャすれば、細胞の一部が一致してるつていう理由で

植物から動物を作る事も可能つちやあ可能。

でも、肉体の鍊金が出来ない。

その肉体の成分が分かってても、材料が全て揃つても、ダメなんだ。

肉体を作れるのは、肉体だけ。

どんな便利な技でも、穴はある。

そして、その技が便利であれば便利であるほど、その穴はでかい。この混成鍊金の穴は、肉体が作れないことだ。

これは、混成鍊金の撻。

「よつしやあつ！草あんじやん…何個作れつかな…。  
でかいもん一つ作つても持ち歩きに不便だしなア…。」

色々考へんのも面倒だしな…とにかくやつまつつか。トン、と地面を叩く。

その場所から線が出て、形を作る。いわゆる『陣』つてやつだ。

俺の場合、別になくてもいいんだけど……なんか暇だしな。

「うーん… 3つ… か」

出来たものに、愚痴。

まあ、こんだけ草が少なかつたらしゃーないけどな。  
とにかく腹に入れれば同じ同じ… とばかりに一気に口に入れる。

「旅のお方… かな?」

不意に、後ろから声をかけられる。  
驚きでパンを5回も噉まないうちに飲み込んでしまい、  
呼吸困難になりながら後ろを振り向くと、  
全く知らない、優しそうなおっさんが立っていた。

「… おっさん… 誰?」

この言葉を口にして、  
やば… 初対面にこの言い方はねえか…。  
と、思う。  
つい、昔の癖が出る。  
だけど、俺のその不安とは裏腹に、その外見と同じよつな、優しい  
声が返ってきた。

「私はこの村の村長。アイク、という者です」

こいつが… 村長か。例の、

『神の領域に踏み込む、とにかく凄い業』を使う奴だ。

「俺はウインディ・アドバール。ただのじがない旅人… とでも言つ

ヒーか？」

あえて、俺が『混成鍊金師』っていうのは黙つとく。  
こいつをちょっと観察しとか…。何か気になるし。

「えーと…アイク、さんだつけ?俺、今日泊まるトコねーんだ。  
アンタんトコ、泊めてくんねーか?」

さすがに無理矢理すぎか…?内心そう思つたが…。

「ああ、いいよ。すぐだからね。付いて来なさい」

外見と声が優しい奴は性格も優しいみたいだ。…内心はどうだか知  
らぬけど。

「ども。1日でいいんで、そんな氣イ使わなくていいぜ?」

「そんなんそんなん。長い旅で疲れているでしょう?

大丈夫ですよ、こちらに気を使わなくとも」

…どこまで優しいんだ、コイツは…?逆に怪しいだろ…。  
そう思いながら、村長・アイクについて行く。

3分も歩かないうちに、

「ココだよ。空き部屋はたくさんあるからね。好きに使つとい  
とか言られて、流れるように中に入れられた。

「うわ…すげーな…。ですが村長…」

全ての空き部屋に、シングルベットが置いてある。  
これが、村長の『格』…こうやつなのだろうか。  
この凄さに、ほとほと呆れる。

ま、泊まるところにちにとつちや良いんだけどな。  
部屋にドサッと荷物を置くと、伸びをする。  
伸びが終わった瞬間、玄関のドアが開く音がした。

## プロローグ（後書き）

ちょっと長いかな…（＾＾；  
もし最後まで読んでくれた方がいらっしゃったら、どうぞコメント  
お願いします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2985f/>

---

混成鍊金

2010年10月11日01時03分発行